

異次元の対応

関西大学 社会安全研究センター 小澤 守

最近、国会の予算委員会では我が国の少子化対策をめぐって様々な議論が交わされている。その中心は、出産の給付金だの児童手当だのといった内容である。若い人たちのなかには子供を意図的に授からないとか、子供は一人おれば十分と考える人たちが多くなっていると聞くが、その背景には働き方改革とか、女性の働き方の変革、老後の年金生活に対する不安、非正規社員・従業員の増加など様々な社会経済問題があろう。女性の働き方に関連して、Diversity (多様性) の掛け声のためか、最近見た大学教員募集の条件欄に「女性」と書かれたものを見た。筆者の分野 (機械工学) では従来から女性研究者・教員は非常に少なく、これを少しでも緩和しようとの目論見だとは思いますが、選考にあたって大学教員で一番に配慮される研究業績から見て、応募した女性の中に適切な人材が見当たらない場合にはどうするのだろうと気になる。

さて、件の予算委員会における我が首相の答弁中に「異次元の対応」をとる意図が頻繁に出てきた。著者などには次元というと、空間を表す3次元や時間軸も入れれば4次元の時空間、あるいは尺度としての意味合いが染みついている。

例えば直線はあくまでも直線であり、平面はどこまで行っても真っ平であるとするユークリッド幾何学に対する非ユークリッド幾何学で扱う空間や、多くの座標あるいはベクトルで表される空間が一般に異次元空間である。逆に3次元から見た1次元も異次元になる。SFなどでは異次元の生物などが時空を超えて出没する、まるでドラえもんの世界が異次元に対応しそうである。尺度についても極めて簡単な事例を挙げておこう。ある種の事象 Π に関係する因子として Π_1, Π_2, Π_3 を考え、 $\Pi = C\Pi_1^a\Pi_2^b\Pi_3^c$ のように表現できるとする。C は定数である。

左辺の単位が $[\text{kg}/\text{m}^2\text{s}]$ であるとすれば、右辺の因子をそれぞれ、 $[\text{kg}]$ (質量), $[\text{s}]$ (時間), $[\text{m}]$ (長さ) とすれば、右辺の次元 (単位) と左辺の次元が一致しなければならないから、 $a=1, b=-1, c=-2$ となる。実際にはもっと複雑ではあるが、実験結果などに基づいて相関式 (予測式) を求めるのに頻繁に利用される次元解析がこれで、このような手法を Buckingham (バッキンガム) の π 定理* と呼んでいる。

といったようなことを、まさか首相が念頭に置いているのではあるまい。そこで今はやりの ChatGPT に尋ねると、Different dimension あるいは Alternate dimension と翻訳された。Dimension を尺度と訳せば、「今までとは異なったスケール」、あるいは「今までとは別の対応」となる。「異」というのは「違う」ということであり、「違う」ためには基準が不可欠である。とすれば前者なら、例えば従来1兆円の対応であったのが、桁がひとつ大きい10兆円規模ともなれば異次元といえるだろう。他方、後者であれば、既にいろいろな対策が施されている中で、従来とは全く異なる斬新な対応が必要になるはずだ。

しかし実際はどうだろう。具体的な対応とすれば、様々な方策を省庁国自治体の垣根を越えて統合的に実行して、深刻化する少子化の状況に対応することしかないのではないか。そもそも少子化になって何が問題か。高齢化社会になるに

至って、従来方式の高齢者を支える枠組みの下では働き手が足りないということなのか。それなら従来の年金制度，医療制度，税制度など包括的に再検討し，問題があれば再構築するのが本来の対応であろう。人口1.2兆維持が至上命題ではないはずである。給付金という名の税金を単にばらまくのが対策ではないと思うのだが。

国境を越えて働き手を確保しようといった既存の対応もあるなかで，そんなにあの手この手があるわけでもなかろう。また省庁をまたぐ対応をとればどこかで壁があつてうまくいかないのは我が国の常。ひょっとしたら何もしないということも多様な対応から見た異次元の対応になるのかも。



* E. Buckingham, On Physically Similar Systems; Illustration of the Use of Dimensional Equations, Physical Review, Vol. 4, Issue 4 (1914), pp.345-376.